

教育長 学校保健安全法に定められた検査項目は10項目で、その10項目以外の検査を実施する際には、学校医と学校の事前の協議および児童生徒保護者への周知が必要であること、併せて児童生徒のプライバシーや心情に配慮した健康診断を実施するよう努めることを改めて示されています。

Q 学校医の高齢化が進んでいる上に、学校健診での訴訟リスクも伴うことから、担い手不足に拍車をかけることになりかねず、学校医の処遇改善が求められるところだが、学校医の報酬の現状について。

教育長 全日制や定時制では、1校当たりの平均生徒数で、医師が1人配置として試算した場合、年額299,884円です。特別支援学校には、生徒数や医師数に関わらず定額で、内科が年額329,900円、眼科・耳鼻科が年額237,100円です。近畿の各府県立学校では、生徒数に応じた報酬の最高額が年額平均742,800円、最低額は年額平均246,900円です。

Q 学校歯科医の報酬の現状について。

教育長 全日制や定時制では、1校当たりの平均生徒数で、医師が1人配置として試算した場合、年額241,004円です。特別支援学校には、生徒数や医師数に関わらず定額で、年額237,100円です。近畿の各府県立学校では、生徒数に応じた報酬の最高額が年額平均742,800円、最低額は年額平均217,920円です。

Q 学校薬剤師の報酬の現状について。

教育長 校種や生徒数に関わらず定額で、年額133,270円です。近畿の各府県立学校では、最高額は年額169,000円、最低額は年額130,000円です。

Q 学校医、学校歯科医、学校薬剤師の報酬の違いについて。

教育長 学校医は、健康診断、感染症や食中毒の予防措置、児童生徒の救急措置など、学校歯科医は、歯科検診、虫歯の予防などの歯科指導など、学校薬剤師は、環境衛生検査、医薬品等の保健管理など、職種によって業務量に差があることから、本県には報酬に差を設けています。

Q 学校健診に関する様々な問題について、児童生徒、学校医、学校それぞれに事情があるものの、相互理解が得られないことが大きな要因でもあると考えるが、医師、学校、児童生徒、保護者それぞれの相互理解を得るための教育委員会としての今後の対応について。

教育長 今後の実施方法等については、県医師会に助言をもらいながら、健診にかかる負担軽減のために、学校と学校医の認識確認のための資料や、児童生徒、保護者の理解を深めるための資料等の作成を行い、引き続き県医師会等と連携して、学校をはじめとする関係者に周知し、正確な診察とプライバシーや子どもたちの心情に配慮した健康診断となるよう、引き続き取り組んでいきます。

デジタルコミュニケーションの活用状況について

デジタルコミュニケーション「通賃」まちのコインビッコについて、令和5年11月定例会議の一般質問で取り上げました。令和4年7月にスタートした「まちのコインビッコ」は、一般質問を行った時点で導入から1年4か月過ぎていましたが、存在や仕組みが十分に知られていない状況でした。

そこで2025年に本県で開催される国スポ・障スポ開催に向けた機運醸成に「まちのコインビッコ」を利用してはどうか、スタンプリ機能を活用したビワイチや、お城巡り、ロケ地巡りなどお店や観光地などのスポット機能と組み合わせる観光振興につなげてはどうか、といった提案などをあげたところ、前向きな回答がありました。

あれから1年、「まちのコインビッコ」を導入してからは2年4か月が経過していますので、その後の取り組み等について質問を行いました。

Q 現在の「まちのコインビッコ」の状況について。

総務部長 事業者等が参加するスポットは約830か所現在3,400を超える体験が提供されています。ユーザー数は約2万2千人に上り、直近12週間の総流通量は8千万ビ

コを超え、新たな人とのつながりや地域のにぎわいにつながっています。

Q 利用できるスポット数が少なくユーザーにメリットが感じられない。「まちのコインビッコ」の認知度はまだまだ低いと考えるが、この課題に対する見解は。

総務部長 県内7つのモデル地域として実施している地域では一定程度普及していますが、県全域では更なる周知や利用のきっかけとなる機会の提供が必要と考えます。

Q 大津市在住の作家、宮島未奈さんの小説「成瀬は天下を取りにいく」が2024年本屋大賞を受賞し、小説「まちのコインビッコ」のコラボ企画として、「この春を成瀬に捧げるスタンプリ」が令和6年4月1日から3か月間実施されたが、その成果について。

総務部長 約3,100人が参加、県外利用者が4割以上占め、他のスタンプリに比べ多く見られました。参加者アンケートによる本スタンプリ参加者の推定消費額は全体で約1,700万円、まちのコインビッコを使う他の体験の利用にもつながっています。

ひとりの消費単価は県内利用者が約3,000円、県外利用者は約8,600円です。

Q 好評につき今年3月末まで常設スタンプリとして「成瀬と天下を取りにいくスタンプリ」が開催されているが、状況は。

総務部長 令和6年7月以降常設の「成瀬と天下を取りにいく」スタンプリ参加者は約1,800人、このうち春のスタンプリ参加からのリピーターは約480人です。

Q 現在開催中のスタンプリも含め、これまでに開催されたスタンプリの状況について。

総務部長 令和5年12月から1年間で実施した新たなスタンプリは60件、延べ8,700人以上が参加されました。

人気のあったスタンプリは「この春を成瀬に捧げるスタンプリ」の他、「守山の有名建築を巡るスタンプリ」等があり、参加者からは、地域を巡り新たな発見があったなどの声が寄せられています。

Q 1年前の質問で、もしサポ滋賀の協力事業者、中小事業者支援の「しが割」の登録事業者、旅行支援の「しが旅」の参加事業者へのPRなどを提案したが、その後の観光振興やビジネス拡大、県施策への参加事業者へのPRなどの対応について。

総務部長 令和6年1月に、しが割に登録の約6,500店舗に対して周知を行ったほか、商工大会、商工会議所および中小企業団体中央会等を通じて、県内の事業者へ周知を図った結果、スポットの増加、商店街における利用につながっています。

Q 地域交通の活性化をめざし、近江鉄道やJR草津線、信楽高原鉄道などを利用したスタンプリの検討はどうか。

総務部長 デジタル地域通貨を活用した公共交通利用促進や地域活性化策は可能性があるので、追求していきたいと思えます。

Q 1年前の質問にて、滋賀県が実施する事業に「まちのコインビッコ」を活用し連携することで相乗効果が期待できるものが多くあり、各部署との連携をさらに進めていくとの回答があったが、その後の全庁的な取り組み事例について。

総務部長 これまでの紙のスタンプリからまちのコインビッコを使いデジタル化した取り組みや、参加者の声を集めるために新たに「まちのコインビッコ」を活用した取り組みがあり、庁内にも浸透してきているところです。

M.L.G.Sとまちのコインビッコの活用を考えるワークショップの開催や、イナズマロックフェス参加者のメッセージを募集する企画等を実施しました。

引き続き、様々な事業における活用や、多くの来場者が見込まれる大阪・関西万博を通じて、「まちのコインビッコ」をきっかけに本県を訪れ、周遊される関係人口の増加を図るとともに、そこから得られるデータを事業の効果分析に活用していきます。

Q わたしHIGHA輝く国スポ、障スポ開催に伴い、来県者へのおもてなしツールとして、また、県民、県内事業者を巻き込んだ機運醸成のためのツールとして、「まちのコインビッコ」の活用可能性は大いに期待できる。そこで2025年の国スポ・障スポに向けた「まちのコインビッコ」の取り組み状況について。

知事 国民スポーツ大会・障がい者スポーツ大会には多くの来訪者が見込まれることから、「まちのコインビッコ」を活用する、大会を盛り上げるツールとしての可能性は大いにあります。内容、コンテンツなどという方法で活用していかれるのかということも検討中ですが、せっかくあるツールをうまく使える可能性を追求していきたいと思えます。

Q 県民あがてのおもてなしを「まちのコインビッコ」というデジタル技術を活用し、県民、事業者が一丸となって取り組むために、その推進力となる部局横断的な取り組みが必要と考えるが。

知事 令和7年は万博や国スポなどのビッグイベントがあります。いろいろな機会、大会だけではなく、飲食店を巡ったり、いろんなスポットを訪れてもらうということとセットでお迎え、おもてなしをしたいと思いますので、その取り組みは様々な形でやっていく必要があると思えます。

「まちのコインビッコ」をうまく活かせるための何かが取り組みはやりくりしたいと思います。うまく使いながらおもてなしをする、地域を盛り上げることが、可能な限り追求していきたいです。近江鉄道の協議会等でも、「まちのコインビッコ」を紹介し、未加入の市町に對しても取り組みを促し、可能な限り広げていきたいと思えます。

田中松太郎の日々の活動はSNS等で配信しています！

公式ホームページ
Facebook
Instagram
検索 田中松太郎
http://matsutaro.jp/

12月11日、知事に新年度予算についての提言を行いました



チームしが県議団意見書

可決 「実効性ある学校の働き方改革および長時間労働の是正を求める意見書」を提出

学校現場では、教員希望者の減少、病休職者や早期退職者の増加によって教員が不足しています。子どもたちの学びに大きな支障を及ぼしかねない状況は看過できません。子どもたち一人ひとりの豊かな学びを保障することに主眼をおいた「実効性ある学校の働き方改革および長時間労働の是正を求める意見書」を提出し、全会一致で可決しました。